

# 小児科・周産期母子メディカルセンター 小児外科 (母子医育支援センター)

## 副センター長のあいさつ

わが国の内閣には少子化対策大臣までおいて、少子化対策に当たり始めました。確かに国レベルでは、出生率は年々下がっていますが、この順天堂医院の産科・婦人科は、地域周産期センターとして活躍しており、分娩数は4年前から、毎年約40件ずつ増加し、2005年は、699件の分娩を取り扱いました。

私どもの産科・婦人科の特徴は、内科合併症のある妊婦が多く、その管理が得意であり、母子ともに難しいお産を安全に終わらせていきます。また、超音波診断学は、指導的立場にあり、妊娠中に発見された、胎児異常に対し、小児科、小児外科と一緒に、新生児の手術と術後管理に当たっています。さらに、無痛分娩の希望者が年々増えており、妊婦の要望に応えています。

子供を生まなくなりつつある世相のなかで、妊婦、母親、子供一人ひとりの手厚いケアは、益々求められるだけに、母親、新生児、小児の医育支援の充実のために、新たに『小児科・小児外科・周産期母子メディカルセンター』を設立し、一層の機能の拡充をして、皆様のご期待に応えたいと思います。



周産期母子部門担当  
産科・婦人科教授  
木下 勝之

# 小児科・小児外科・周産期母子 メディカルセンター (母子医育支援センター)

平成18年2月1日オープン!



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3  
TEL: 03-3813-3111 (大代表)

ホームページ：  
<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

(平成18年2月作成)

# 小児科・小児外科・周産期母子メディカルセンター(母子医育支援センター)

## センター長のあいさつ

このたび、順天堂医院では小児科、小児外科と産科(周産期)の三科が協力して、母と病める子供の医療と育児支援を行うべく、『小児科・小児外科・周産期母子メディカルセンター』を立ち上げました。

小児外科は、昭和43年わが国に初めて誕生した小児外科講座であり、以来本邦で最も多くの外科治療を必要とする、生まれたばかりの赤ちゃんから子供さんを手術により治療してまいりました。

少子化の進む中、専門領域である当科で治療する子供さんの数は右肩上りで増加し多忙を極めています。

小児外科医を目指す若い医師も研修のため、多く集結しております。

海外留学経験者が多く、全員英語での対応も可能です。

当科では消化器を中心とした一般外科と共に、小児の泌尿生殖器外科の子供さんも取扱います。また当院は当科以外にも小児の心臓血管外科、脳神経外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸科など広い領域に亘り小児の手術治療の専門家が揃った全国的にも数少ない病院です。小児の腹腔鏡下手術をはじめ、小児の最先端外科医療の拠点でもあります。

今後センター設立を機に、小児科並びに産科との協力体制をさらに強化し、手術を必要とする子供さんにご両親の支援に貢献させて頂きたいと願っております。



センター長  
院長  
小児外科・小児泌尿生殖器外科教授  
宮野 武

## 副センター長のあいさつ

小児科は、新生児(赤ちゃん)から高校生(18歳)すなわち思春期までの種々の内臓の病気から心の病気までの問題、体重で言えば300g代の未熟児から100kgを超える肥満の青少年までの若い人たちの健康問題に対応する科です。そのため当院では小児科・思春期科と称しております。

内科が、循環器内科、消化器内科、膠原病・リウマチ内科等々と分かれている様に、当科も内科に相当する子供の専門医がおり、さらに新生児科医、心の悩みに対応する児童精神科医、赤ちゃんや幼児、学童の発達を評価する専門医もいて、子供達の多様な問題に対応出来る本邦でも数少ない小児科専門医集団の診療、研究、教育を行っている科です。

病気以外の、健康問題、子育て、離乳食の相談も親切、丁寧そして誠意を持って対応させて頂いております。当院の小児外科は勿論、脳神経外科、心臓血管外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸科、形成外科の子供達の術前、術後の管理を当該科と当科が緊密な連携を取りながら行っております。

医師は海外で研修や研究をした者が多く、その数、質ともに充実し、患児のニーズに応えられる様、常に誠意をもって努力しております。



小児科部門担当  
小児科・思春期科教授  
山城 雄一郎